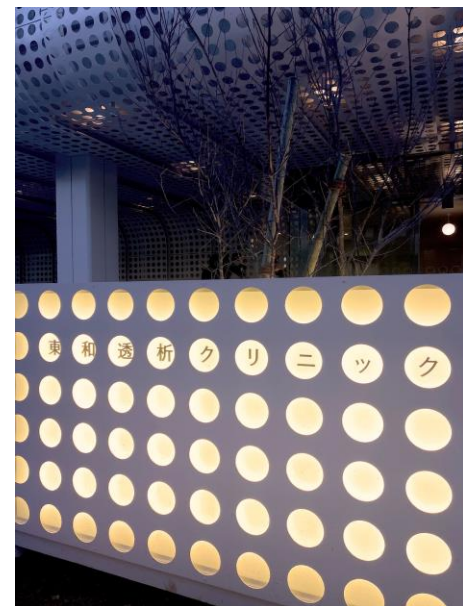
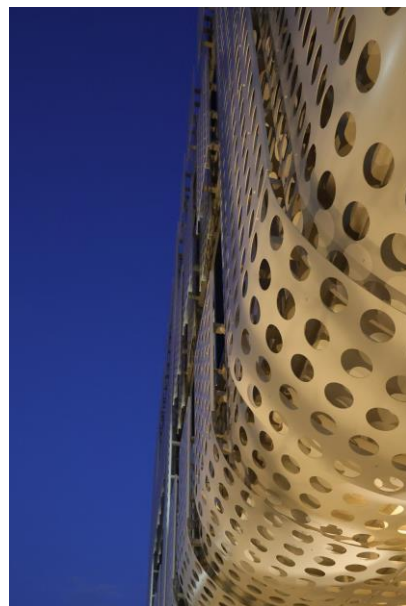


東和透析クリニックデザインコンセプト

孔を通（透）して好い「流れ」を作る



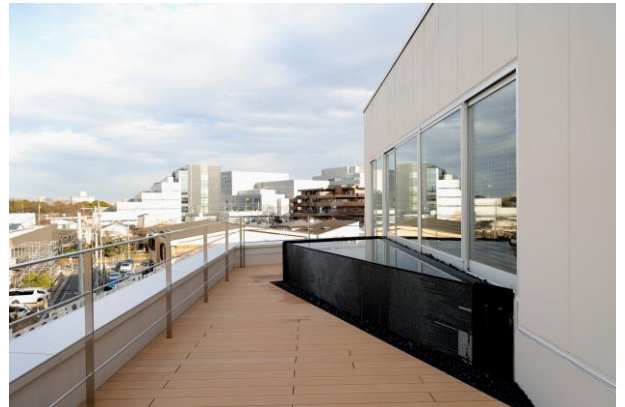
人工透析医療では「ダイアライザ」と呼ばれる人工腎臓が使われますが、これを顕微鏡で拡大して眺めてみると、そこには無数の孔があいていることがわかります。この無数の孔（あな）を通じて血液が浄化され健康な流れを作ってゆきますが、クリニック外観や、室内の柱に開けられた円形の孔はこのダイアライザをヒントにデザインをしています。通（透）すことで好い流れを生むことをこの建物の全体的なコンセプトとしています。



外装のアルミ板には直径10センチの孔を無数にあげ、段差をつけながらストライプ状に並べて配置しています。特にエントランスでは患者さんが安心して館内に入れるよう、天井と壁が連続するような柔らかな曲線的デザインとして、水盤に流れる水と共にお迎えします。色も白にほんの少しだけ黄色を混ぜて柔らかな印象を出せるように丁寧に選んでいます。



4階の談話スペースでは、
温かい色調の間接照明で照
らされた手すき和紙の壁に
囲まれた空間で、木を使っ
た家具に座って飲み物を飲
みながらゆっくりとくつろ
いでいただけたと思います。



無数の孔に東和の風や雰囲気が通（透）りぬけることで東
和透析クリニック全体がまちを浄化するフィルターとして
機能し好い「流れ」を生み、地域に愛され生活の拠り所と
なることを願っています。

神田剛建築設計事務所
代表 神田剛